

英語リーディング ER27(2)

- (9) Chapter 6 Bridges 「身近な数理科学」、「日常生活の中にある科学と芸術」、自分の伝えたいことを英語で表現する
- (10) Chapter 7 Synchronized Chaos, 「混沌と秩序」これまで出てきた自然科学の英語の復習、同じ議題について書かれた異なる学術記事を読み比べる
- (11) Chapter 7 続き、日英で 5 分間プレゼンテーション、議論
- (12) Chapter 8 Sync in Three Dimensions、日英で 5 分間プレゼンテーション、議論
- (13) Chapter 9 Small-World Networks
- (14) Chapter 10 The Human Side of Sync
- (15) フィードバック

[履修要件]

「全学共通科目履修の手引き」を参照してください。

[成績評価の方法・観点]

5回以上欠席した場合は成績評価の対象としない。

平常点60%、期末試験40%

授業中の自由で積極的な発言と、自ら主体的に調べて学ぶ姿勢を評価します。学術英語技術を習得する授業なので、必要に応じて、より適切な英語の発音やアクセント、イントネーション、表現に授業内では誘導していきますが、成績評価では、英語の発音の正確さや流暢な英語力だけではなく、むしろ予習、復習そして積極性や主体性を重視します。

[教科書]

Steven Strogatz 『SYNC The Emerging Science of Spontaneous Order, Penguin Press Science』（2004）
ISBN:9780141007632（キンドル版、ペーパーブック、オーディオ等あります）

* キンドル版、ペーパーブック等どの媒体の教科書を購入しても構いません。

* 音声（オーディオブック）も入手可能です。

[参考書等]

（参考書）

蔵本 由紀 『非線形科学 同期する世界』（集英社2014）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業の予習として、わからない英単語や用語は事前に調べておいてください。授業では双方向コミュニケーションを重視していますので、積極的に発言しましょう。

● 予習や復習は原則ですが、予習ができなかった週でも、技能の授業は出席して得るものがあります。前週前夜体調不良等で予習ができなかった日は、授業時間に集中して積極参加し、知的な刺激を得て帰るようにしましょう。

● 「英語が苦手」「英語の発音は得意ではない」「英語はあまり喋れない」「リスニングは苦手」と思っている、問題ありません。学術英語は訓練すれば誰でも身につけることのできる技術です。

[その他（オフィスアワー等）]